

2015-4-15
No.956 250円

思想運動

活動家集団 思想運動
発行・小川町企画 〒113-0033 東京都文京区
本郷3の38の10さかえビル2階 ☎03-3818-
6671 FAX03-3818-3199 (郵便振替)00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080-4700-6461
HP <http://www.shiso-undo.jp/>
購読料:年間6,000円 半年3,000円(送料共)

「相撲」部分(鳥獣戯画)甲巻より 関連記事8面

『鳥獣戯画』に何を見出すか。一見、動物たちがのどかに相撲をとっているようだ。しかし、猿・兎・蛙という序列による階層社会を生き抜く様が描かれている——そう見ると一転、蛙が兎



機関紙誌拡大運動スタート

の耳に食らいつく場面は、必死の闘争の様相を呈してくる。花田清輝はそうした見方から、いま、という時代を生き抜く大衆の力を見出した。この絵を生み出したのは、社会の下層に置かれ抑圧された人びとだ。社会の事、事の描写、あるいは批判を、擬人化して描き出し痛烈に笑い飛ばした。その笑いの力は不当な支配・収奪への怒り、日々のやりきれなさを乗り越えながら、変革の力を増殖させていくものともなった。そこにはいまわたしたちが学ぶものがあるのではないか。 [編集部]

日朝ストックホルム合意を破壊する日本政府の大暴挙 朝鮮総聯議長に対する弾圧を糾弾する！

強制捜索を糾弾！

この日朝ストックホルム合意側と共に、日朝平壤宣言に則して、不幸な過去を清算し、文にどのような文言が書かれているのか、この文言に照らして合意を二方向的に破壊する行為に出たのは日・朝どちらの側なのかを、以下、検証してみる(次頁に合意全文を掲載)。「日朝ストックホルム合意は、前文、日本側の行動措置、朝鮮側の行動措置の三部構成になっている。」

三月二十六日早朝、京都・神奈川・山口・島根の各府県警による合同捜査本部は、在日本朝鮮人総聯合会(以下、朝鮮総聯)中央常任委員会の許宗萬議長と南昇祐副議長の自宅を強制捜索するという大暴挙をはたらい。同日、二〇一〇年に朝鮮産松茸を「不正」輸入したという外為法違反嫌疑で貿易会社とその社長宅も強制捜索を受け、社長および社員一名が逮捕された。総聯議長・副議長宅への家宅捜索は、その関連嫌疑という名目であった。この朝鮮産松茸の「不正」輸入嫌疑については、昨年五月にも大規模な強制捜索が朝鮮総聯関連企業と総聯活動家たちの自宅に対して強行されており、今回の朝鮮総聯議長・副議長宅への強制捜索は、この前回の弾圧を拡大したものである。しかも、五年も前の嫌疑を持ち出し、事件化する手口は、第一次安倍政権時の漆間・警察庁長官が〇七年頭記者会見で明らかにした「北朝鮮の資金源について」(以下)までやられるのかと相手が悪く、事件化して実態を明らかにするのが有効だ」との口口の再来を思わせるフアッシュの弾圧である。

日朝合意文の真実

今回の朝鮮総聯議長・副議長宅への強制捜索は、昨年五月の日朝政府間のストックホルム合意にもとく朝鮮民主主義人民共和国(以下、朝鮮)の包括的かつ全面的な再調査が進行しているさなかに引き起こされた。われわれは、この日朝合意文の真実を明らかにし、朝鮮側と日本側の行動措置で七項まである行動措置のなかに「行方不明者」の文言(第四項)はあっても「拉致被害者」の文言はない。大切なのは第一項にある「北朝鮮側と共に、日朝平壤宣言に則して、不幸な過去を清算し、文にどのような文言が書かれているのか、この文言に照らして合意を二方向的に破壊する行為に出たのは日・朝どちらの側なのかを、以下、検証してみる(次頁に合意全文を掲載)。「日朝ストックホルム合意は、前文、日本側の行動措置、朝鮮側の行動措置の三部構成になっている。」

前文では「双方は日朝平壤宣言に則して、不幸な過去を清算し、懸案事項を解決し、国交正常化を実現するために、真摯に協議を行った」として、この合意が日朝平壤宣言にもとく日朝国交正常化までを視野に入れたものであることを説明している。そのうえで、「日本側は、北朝鮮側に対し、1945年前後に北朝鮮域内で死亡した日本人の遺骨及び墓地、残留日本人、いわゆる日本人配偶者、拉致被害者及び行方不明者を含む全ての日本人に関する調査を包括的かつ全面的に実施することを」とし、「さらに第一項に『調査は一部の調査のみを優先するのではなく、全分野について、同時並行的に行うこととした』と明記されている。日朝ストックホルム合意が「拉致再調査」だけの実行と「ラ致再調査」の訂正についていない。

さらに日朝ストックホルム合意で、われわれ日本労働者階級人民が決して見落としてならないのが、前文にある「北朝鮮側は、過去北朝鮮側が拉致問題に関して傾けてきた努力を日本側が認めたこと」を評価し、従来の立場は、その全ての日本人に関する調査を包括的かつ全面的に実施し、最終的に、日本人に「活動家集団思想運動」常任運営委員会

●2015年4月15日号 おもな内容●	
<労働>メトロコマース支部が全日スト決行	2面
<労働>労働者通信=「残業代ゼロ」制度を先行させた現場から	6面
<文化>映画時評=「パリよ、永遠に」	7面
<文化>美術展紹介=「鳥獣戯画展」	8面
<労働>メトロコマース支部が全日スト決行	2面
<大衆運動>日本郵政による非正規社員の使い捨てに抗議する	3面
<大衆運動>「大阪維新の会」延命の矛盾を断ち切る	3面
<拡大運動>「思想運動」にのぞむこと——山口正紀、森本孝子	4面
<HOWS>HOWS2015年前期講座に参加を	5面
<文化>映画時評=「パリよ、永遠に」	7面
<文化>美術展紹介=「鳥獣戯画展」	8面